

## 第17回 円山川流域委員会 議事録(概要版) 会議の概要

日 時： 平成24年3月20日(火)14時00分から16時00分

場 所： 但馬地域地場産業振興センター 多目的ホール（じばさん TAJIMA 2F）

### 1. 開会

庶務担当の(株)東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

### 2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

### 3. 議事内容

1. 委員の補充について
2. 第16回委員会までの審議経過の確認
3. これまでの河川整備状況の確認
4. 今後の委員会の進め方の確認

### 4. 審議内容および決定事項

#### 4.1 委員の補充について

河川管理者より委員を補充する意向が提示され、漁業分野関連の学識経験を有する円山漁協の福井氏が適任であるとの意見が出され了承された。

#### 4.2 第16回委員会までの審議経過の確認

庶務より第16回委員会までの審議経過の確認について説明があった。

#### 4.3 これまでの河川整備状況の確認

引き続き河川管理者よりこれまでの河川整備状況の確認について説明があった。

主な意見・質問は以下の通りである。

##### 〈主な意見・質問〉

- ・立野における基本方針河道流量  $5,600\text{m}^3/\text{s}$  は工事実施基本計画に対して  $200\text{m}^3/\text{s}$  増加しているが、これと激特への影響はどうか。(川合委員)  
→ $5,600\text{m}^3/\text{s}$  を流せる断面はできると考えているが、激特では  $5,600\text{m}^3/\text{s}$  に対応できていない。(河川管理者)
- ・①河道掘削の効果で H16 洪水では 32cm の効果、H21 洪水では 81cm の効果となっているがどういうことか。②昭和 50 年代より特に地盤沈下が進行しているが理由は何か。また、そうしたなかでの築堤の考え方は。③六方川の右岸に二線堤を設置したが左岸の家屋は浸水しないのか。(菊地委員)  
→①H16 洪水の効果として、激特前は氾濫後の流量(約  $4,200\text{m}^3/\text{s}$ )、激特後は事業効果により氾濫しない流量(約  $4,900\text{m}^3/\text{s}$ )を対象としている。②豊岡盆地の地下水位は経年的に下がっており、特に冬場が大きい。築堤は地盤沈下を考慮して行っている。家屋が近接する区域では、堤体の地盤沈下対策費の方が築堤費より高いのが実態である。③六方地区の内水対策により内水域内の家屋の床上浸水は解消される。(河川管理者)
- ・破堤を防ぎ、越水に耐えるような堤防に技術的に達しているのか。また、今後はそのような堤防を取り入れていくのか。(畑委員)  
→浸透対策として堤防天端を舗装しているが、結果として越水にも効果があると考えている。越水対策そのものは技術的に確立されていない。(河川管理者)

- ・パラペット堤は越水しても支えられるのか。(畑委員)
  - パラペットは一旦壊れると修復に時間がかかるため、安易に採用すべきではないと考えている。(河川管理者)
- ・①洪水をかかわす、逃がす手法が二線堤であると思うが、一方で中ノ郷遊水地の状況はどうか。②提言において緊急時の避難場所の充実を提言しているが対応状況はどうか。(菅村委員)
  - ①中ノ郷遊水地は今後 20～30 年の対応と考えている。
  - ②避難場所の取り組みは次回提示したい。(河川管理者)
- ・KTR 橋梁の基礎はどのようにしているのか。また、赤花ダム、与布土ダム、八鹿ダムへの対応はどうなっているか。(垣田委員)
  - KTR 橋梁の件は本日資料を持ち合わせていないので次回説明したい。(河川管理者)
  - 赤花にある但東ダムは平成 19 年 3 月に完成、与布土ダムは 2 年後に完成する。また、八鹿ダムは中止となった。(豊岡土木事務所)
- ・①防災ステーションは住民の避難場所となるのか。②加陽地区は全国的に見あたらぬ取り組みだが、その管理はどうするのか。(菊地委員)
  - ①避難場所ともなり得る。
  - ②加陽地区の管理は豊岡市や地域住民と調整しながら行っていく。(河川管理者)
  - 防災ステーションは避難場所として適切でない。(藤田委員長)
- ・弱小堤防の定義は。(沖村委員)
  - 改修前の一市堤防のようなカミソリ堤のことをいう。(河川管理者)
- ・安定計算上は大丈夫なのか。(沖村委員)
  - 浸透に対して安全となるよう対策を行っている。(河川管理者)
- ・下流部治水対策はどのような整備を行うのか、今後整備内容を示して欲しい。(岡本委員)
  - 次回提示する。(河川管理者)
- ・稲葉川合流点付近は川幅が狭く、増水時はすぐ水が回る。合流点が下流にきたことで水が近くになったが、その点は大丈夫か。(江尻委員)
  - 蛇行している区間なので局所的に堆積しやすいところがある。維持管理として土砂を取る必要があると考えている。激特事業で下流を掘削しているため、稲葉川合流点改修により従来より水位が上がることはない。(河川管理者)

#### 4.4 今後の委員会の進め方

庶務より今後の委員会の進め方について説明があった。

#### ●一般傍聴者からの意見

なし